

1) On Farm Culture 続編

都合により、次回かその次にさせていただきます。農場で試験的に行っていますので、その結果をお知らせしたいと思います。

2) ショートシンク (ShortSynch) あるいは ウルトラシンク (UltraSynch) の可能性について

超音波診断装置の導入によって、卵巣の状態がより正確に把握できるようになりました。一方、ホルモン剤を利用したオブシンク (当社通称 CPC) も、広く普及し妊娠率向上に寄与しています。しかし、オブシンクは、GnRH を2回、PG を1回投与しなければならず、また初回注射から授精までに10日間を必要とします。

そこで、当然考えられるのは、超音波によって機能性の黄体を確認できればそこから直接的にPGを投与しておき、そしてGnRHを注射することによって排卵を同期化しようというもの、これをショートシンクあるいは、ウルトラシンクとよばれているようです。

(図1)

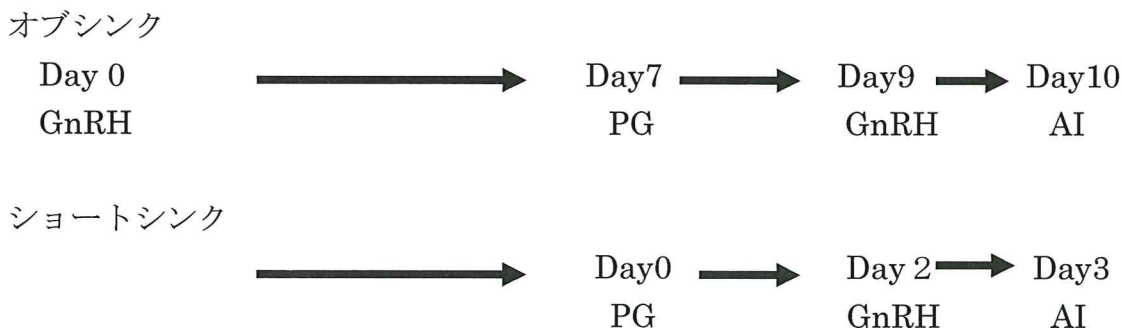


図1

これらは、すでにいろいろ試験がされています。日本では、塩倉 (2005) がショートシンクの受胎率を42.6%と報告し、新田は今年の日本獣医師会で42.9% (15/35)と報告しています。さらに、石井らは最近のある農場でのデーターとして、33%~38%と述べています (石井らはエストラジオールも併用)。

私もデーターを昨年の9月から今年の4月までとって見ました。超音波で機能性の黄体 (20mm以上)を認めて、卵胞が20mm以下であるときにPGを投与し、2日後の夕方にGnRH (スポルネン・コンセラルール・コンサルタン)を投与しました。結果は前述したデーターとほぼ近いものとなりました。17戸の農場で240頭にPG/GnRH (ショートシ

ンク 通称 PC) を行いました。95 頭が妊娠しましたので $95/240=39.6\%$ の成績でした。最も成績のよかった農場は、1 頭やって 1 頭プラス (100%) 以外では、 $6/8=75\%$ ありました。最も成績のでなかった農場では、 $1/7=14.2\%$ となりました。このショートシンクプログラムで 14.2% の受胎率を示した農場の全体の妊娠率は、25% と非常に優秀な農場でしたので、何かタイミングが悪かったのか理由がよく分かりませんでした。一方、受胎率 75% の農場の平均妊娠率は 22% です。反応も十分だったというところでしょうか？いずれにしろ、240 頭中 93 頭の受胎 (39.6%) 率は、自然発情における受胎率に匹敵あるいは勝る成績ですので、プログラム時間の短縮、と、オブシンク (通称 CPC) よりコストが少なくすむメリットがあります。超音波診断装置によって、黄体の機能性 (大きさ) などの把握がより正確性をましたことをうまく利用した効率的なプログラムの一つといえると思います。今後、このプログラムが増えるかもしれません。

黒 崎

帯広畜産大学獣医学部 6 年生の住谷君の来年の就職が決まり、現在張り切って国家試験勉強に取り組んでいるようです。暑中見舞いが届き、猛勉強中とひどい字体で書いてありました。明日香獣医師がこれは芸術的だと自分の字体を棚に上げて驚いていました。そんな折、こういう話は重なるもので、東京農工大学獣医学部の来年卒業予定者から就職の打診がありました。8 月 19 日から 5 日間、就職活動も含め実習に着ます。このマネージメント情報が届いたころには、すでに実習は終わっていると思いますが、皆さんの中で彼を見た方がいればその感触など聞かせていただければ参考にさせてもらいたいと思いますのでよろしく願いいたします。当社獣医師のほとんどは、来年 2 人の新人獣医師採用に前向きですが、私は給料を払っていけるのかどうかのほうに心配です。それでも、当節臨床現場に獣医師が就職しない現状を考えれば、この 2 人の若い獣医師は、当社だけでなく、当地域にとっても宝物になるようにも思えます。獣医師 8 人体制が現実味を帯びてきました。ご期待ください。